



本書は、英語による Crédit Agricole SA 2013 年度第 4 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2014 年 2 月 19 日 モンルージュ

2013 年度及び 2013 年度第 4 四半期業績結果

- 功を奏した重点見直し
- バーゼル 3 の下での堅固な資本構造
- 力強いビジネスパフォーマンスと業績
- 年次株主総会において 1 株当たり 0.35 ユーロの配当提案

クレディ・アグリコル・グループ*

地域銀行とクレディ・アグリコル S.A.から成る当グループの好調な成績

当グループのソルベンシー・レシオの顕著な改善

2013 年度第 4 四半期

純利益グループ帰属分: 12 億 9,300 万ユーロ

2013 年通年

純利益グループ帰属分: 51 億 3,600 万ユーロ

地域銀行の純利益グループ帰属分: 36 億 6,600 万ユーロ

コア・ティア 1 レシオ: 12.6%¹ (+120bp／2012 年 12 月)

完全適用後 CET1 レシオ: 11.2% (9.3%／2012 年 12 月)

* クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の 100%

クレディ・アグリコル S.A.

健全なファンダメンタルズ、大幅な業績回復目標に沿った成績

2013 年度第 4 四半期

純利益グループ帰属分: 6 億 1,200 万ユーロ

2013 年通年

営業総利益: 47 億 3,800 万ユーロ (2012 年度比+9.4%¹)

リスク関連費用: -29 億 6,100 万ユーロ (2012 年度比-20.0%¹)

純利益グループ帰属分: 25 億 500 万ユーロ

コア・ティア 1 レシオ: 10.0% (+74bp／2012 年 12 月)

完全適用後バーゼル 3 CET1 レシオ: 8.3% (2014 年 1 月)

¹ 2012 年度は、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジ、CA ブルガリア、CACF の北欧子会社の再分類とコンプレックス・デリバディブの一部の評価変更に関する修正再表示。

クレディ・アグリコル・グループ

地域銀行とクレディ・アグリコル S.A.から成るクレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、2013 年度第 4 四半期が 12 億 9,300 万ユーロ、2013 年通年では総額 51 億 3,600 万ユーロとなりました。これらの数字は、エンポリキの売却や、のれんと投資の大幅減損の影響額を含む前年の数字と比較することはできません。

クレディ・アグリコル S.A.の会長ジャン・マリ・サンデールは、「これらの業績は、地域銀行による寄与分の増加とクレディ・アグリコル S.A.の各事業部門の堅調な成績を反映しています。この業績は、当グループのリテール・バンキング事業と関連活動の強さ、並びに現在のフランスと欧州での主導的なリテール銀行としての当グループの強さをあらためて裏付けるものです」と述べました。

クレディ・アグリコル S.A.の CEO ジャン・ポール・シフレも、「われわれの結果は、何よりもまず、当グループの経済モデルの磐石さを反映しています。3 月 20 日に当グループの中期計画を公表するに先立ち、クレディ・アグリコルは、自信をもって前進する準備が整っていることを示しました。当グループは、そのリスク・プロフィールを減らし、優位にある事業に重点を移しました。当グループは、堅固な資本構造を有し、バーゼル 3 の規制要件を前倒しで満たしています」と述べました。

依然として精彩を欠く経済環境にもかかわらず、地域銀行は健全な業績を維持しました。合計顧客預かり資産は、非課税貯蓄性預金及び要求払預金にけん引され、前年比で 3.2% 増、オン・バランスシート預金は 4.2% 増となりました。合計ローン残高は、前年比で 0.4%、住宅ローンは 2.5% の増加となりました。預貸比率は改善し、2013 年 12 月末現在で 126% から 121% に縮小しました。全体では、地域銀行の純利益グループ帰属分は、2013 年度第 4 四半期が 9 億ユーロとなり、通年では前年比 3.6% 増の合計 36 億 6,600 万ユーロとなりました。

当グループの上場部分であるクレディ・アグリコル S.A.の事業部門の成績(下記参照)と合わせると、クレディ・アグリコル・グループの 2013 年度の業績は、フランスと欧州の双方で非常に好調でした。

当グループの流動性及び資金ポジションは、2013 年に更に強化されました。2013 年 12 月末現在、利用可能な流動性準備金は前年同日と比べて 90 億ユーロ増の 2,390 億ユーロに達しました。流動性準備金は、短期の市場資金を十分(168%)にカバーしました。長期資金運用に対する長期資金源の超過額は、通年で 240 億ユーロ増の 710 億ユーロに達しました。更に、クレディ・アグリコル・グループのさまざまな発行体が、2013 年に市場と支店ネットワークを通じてシニア債により 317 億ユーロを調達しました。

ソルベンシーについては、当グループは引き続き財務の健全性を強化し、2013 年 12 月末現在のバーゼル 2.5 コア・ティア 1 レシオは、前年から 120 ベース・ポイント上昇して 12.6% となりました。新バーゼル 3 ルールが発効すると、当グループのバーゼル 3 完全適用後の普通株式ティア 1 レシオは 11.2% となり、グローバル・レベルでシステム上重要な銀行に義務付けられる資本バッファ(1.5%)を組み入れた後でもこの規制要件を上回ります。

クレディ・アグリコル S.A.

2013 年度第 4 四半期の財務諸表を審査し、2013 年通年の財務諸表を承認するため、ジャン・マリ・サンデールを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2014 年 2 月 18 日に開かれました。

クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、2013 年通年で 25 億 500 万ユーロとなりました(第 4 四半期の 6 億 1,200 万ユーロを含む)。

継続的な重点見直しの内訳は、エンポリキ、シュブルー、CLSA、バンキンターの売却の完了など、もはやクレディ・アグリコル S.A.の中核事業ではないポートフォリオ、投資または子会社の売却、Eurazeo に対する投資の縮小、アムンディに対する投資の強化と合わせたニューエッジの売却案作成、CACF の北欧¹子会社と CA ブルガリアの売却準備、及び CDO と米国 RMBS の売却です。

2013 年度第 4 四半期の収益は、前年同期比で 21.9% 増加しました。特殊要因²に関して修正再表示後の事業部門の収益は、健全な事業展開を反映して 3.2% 増加しました。

営業費用は、「MUST」費用削減プログラムの予想を上回る進捗により、前期比で 4.0% 減少し、2013 年末現在で目標を 3,000 万ユーロ上回りました。これにより、4 四半期連続の費用削減となりました。

リスク関連費用は、主にアゴス・デュカトでの改善を理由に 14.2% 減少しました。更に、不良債権の多額の減損処理により、さまざまな事業部門とコーポレート・センターでの引当金水準の強化のために行われた追加貸倒引当の引当率に対する影響が充分相殺されています。2013 年度第 4 四半期に、2 億 6,400 万ユーロの税効果が計上されました。これには、2013 年 1 月にエンポリキが実施した最後の增资にかかる損失の税控除に関する 2 億 2,300 万ユーロの利得、及びイタリアにおける税率と控除ルールの変更に関するカリパルマとアゴス・デュカトに関する 5,700 万ユーロの税効果が含まれます。

第 4 四半期には、ブルガリアの子会社及び CACF の北欧子会社の売却計画に関連して、非継続事業または売却目的保有事業に関する-1 億 3,200 万ユーロの純損失も含まれます。

したがって、第 4 四半期の純利益グループ帰属分は、さまざまな特殊要因が互いに帳消しにすることで 6 億 1,200 万ユーロに達しました。

2013 年通年では、リテール・キャッシング・ネットワークにおける事業が上昇基調を維持し、オン・バランスシート預金が前年比 4.5% 増、住宅ローンが 2% 以上の増加となりました。資産管理及び保険は、管理資産が 477 億ユーロ増加しました(当年度中の 131 億ユーロの純流入額を含む)。専門金融サービス及び法人営業・投資銀行部門など一部の分野で意図的に活動が縮小されている事業では、収益の低下は限定的なものとなりました。

活動のこうした回復力は、クレディ・アグリコル S.A.の収益の微増(前年比で 0.4%)に反映されていま

¹ このプロジェクトは、関連する労働者評議会との協議及び所管規制機関の認可を前提とします。

² 2012 年度: 発行体スプレッド、ローン・ヘッジ、事業適応計画費用。2013 年度: 発行体スプレッド、ローン・ヘッジ、CVA/DVA、及びコーポレート・センターで計上されたさまざまなキャピタルゲイン。

す。

営業費用は、2013 年に 3.0% 減少しました。これは主に、「MUST」費用削減プログラムによるものであり、2013 年末の費用削減目標を超えるました。

営業総利益は、前年同期比で 9.4% 増加しました。

リスク関連費用は、2012 年の 75 ベース・ポイントから 20.0% 低下してローン残高の 67 ベース・ポイントとなりました。すべての事業部門がこうしたプラス傾向に寄与しており、中でも重要な寄与要因はアゴス・デュカトにおける改善でした。

全体では、報告された純利益グループ帰属分は、さまざまな特殊要因が全体的に互いに帳消しにすることで、正規化レベルの 24 億 4,900 万ユーロに近い水準の 25 億 500 万ユーロとなりました。発行体スプレッド、CVA/DVA Day 1、DVA running 及びローン・ヘッジなど業績に対してマイナス圧力をもたらす会計効果は、売却益のほか、税額計算に対するエンポリキの 2013 年 1 月増資の税控除の影響によって相殺されました。

バランスシートと資本構造は、2013 年度中に大幅に改善されました。

2013 年度下半期に、具体的には IAS 基準第 32 号の適用により(決済機関を通じたデリバティブ売買の相殺)、クレディ・アグリコル S.A. のバランスシートは 2013 年 12 月末現在、前年比で 3,050 億ユーロ減少しました(保険及びグループ内取引を除き 24% の減少)。

クレディ・アグリコルは 2013 年に、活動資金の調達のために資本市場で活発に活動しました。

クレディ・アグリコル S.A. は、前年よりもはるかに好ましい平均的条件の下で、当初のプログラムを 35 億ユーロ上回る 155 億ユーロをシニア債によって調達しました。2014 年に関する発行プログラムは、既に 100 億ユーロに設定されています。2014 年 2 月 12 日現在、このプログラムの 40% が完了しています。

更に、クレディ・アグリコル S.A. は、2013 年 9 月に 10 億米ドルのティア 2 コンティンジェント・キャピタルの発行、2014 年 1 月には 17 億 5,000 万米ドルの追加ティア 1 発行を達成し、それらが資本構造の強化に寄与しました。

ソルベンシーについては、資本比率を改善し、バーゼル 2.5 コア・ティア 1 レシオは前年の 9.2% から 2013 年 12 月末現在で 10.0%、グローバル・レシオが前年の 13.2% から 15.8% になりました。こうした順調な流れは、リスク・ウェイト資産の厳格な管理と有機的資本生成(余剰金を含む)とが相まって生じたものです。

バーゼル 3 規制が発効する 2014 年 1 月時点の試算値として、完全適用後のバーセル 3 普通株式ティア 1 レシオは 8.3% でした。

取締役会は、2014 年 5 月 21 日に開催される年次株主総会において、1 株当たり 0.35 ユーロの配当提案を行う予定です。配当の受取りについては、現金又は株式のいずれかの選択肢が株主に与えられます。

クレディ・アグリコル S.A. の過半数株主である SAS Rue La Boetie は、年次株主総会における配当

提案の承認を前提として、新株による支払いを選択する旨を取締役会に対して確認済みです。

更に、ロイヤルティ配当を受け取るための条件を満たす株主は、株主総会における提案配当額の10%に当たる特別配当金を提示されます。

社会的・環境的責任

2013 年、クレディ・アグリコル S.A.は、当グループの社会的パフォーマンスを測る「FReD 指標」の結果を 2 年連続で公表しました。この指標は 2.3 の評価を得ました。プライス・ウォーターハウス・会计师がこの監査に当たりました。この評価は、この手法に参加する 13 の子会社*による進歩を反映するものです。240 の行動計画が、1(計画の選択)から 5(目標の達成)までの段階で評価されました。2.3 という評価は、2013 年には平均すると行動が前年比で 2 段階以上進歩したことを意味します。

2014 年度については、カスタマー・リレーションズ、労働安全衛生、責任あるサプライヤ方針、及びペーパー方針の広範な普及など FReD に関して新たな優先課題が掲げられました。これらの優先課題は、既に 2013 年度の重点優先分野であった障害者への対応と男女平等の促進に加えられるものです。目的は、当グループのすべての事業部門を巻き込み、イニシアチブを奨励することであり、FReD は、各子会社が独自の CSR 方針を立てるための共通枠組みを提供します。

クレディ・アグリコル S.A.は 2013 年に更に、FTSE4Good 指標においてその存在感を固め、また、Euronext-Vigeo の新たな金融外指標と Ethifinance 及び OddoSecurities の ESG ベンチマーク・ポートフォリオのメンバーとなりました。

* アムンディ、CACEIS、クレディ・アグリコル・アシュアランス、クレディ・アグリコル CIB、クレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンス、クレディ・アグリコル・イモビリエ、クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング、クレディ・アグリコル・プライベート・バンкиング、カリバルマ・クレディ・アグリコル・グループ、クレディ・アグリコル S.A.持株会社、LCL、グループ・ペイメント部門、及びユニー・エディションズ。

決算スケジュール

2014 年 3 月 20 日	中期計画の提示
2014 年 5 月 7 日	2014 年第 1 四半期決算発表
2014 年 5 月 21 日	年次株主総会
2014 年 5 月 30 日	配当落ち日
2014 年 6 月 24 日	配当支払日
2014 年 8 月 5 日	2014 年第 2 四半期決算発表
2014 年 11 月 6 日	2014 年度第 3 四半期決算発表

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market values and asset depreciations. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the twelve-month period ending 31 December 2013 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date.

クレディ・アグリコル S.A.連結決算

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4*	2013	Change 2013/2012*
Revenues	4,050	+21.9%	16,015	+0.4%
Operating expenses	(2,894)	(4.0%)	(11,277)	(3.0%)
Gross operating income	1,156	x3.8	4,738	+9.4%
Cost of risk	(883)	(14.2%)	(2,961)	(20.0%)
Operating income	273	nm	1,777	x2.8
Equity affiliates	206	nm	1,074	x2.1
Net income on other assets	104	(6.5%)	116	(34.6%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	583	nm	2,967	nm
Tax	264	+22.7%	(140)	(64.2%)
Net income on discontinued operations	(132)	nm	54	nm
Net income	715	nm	2,881	nm
Non-controlling interests	103	nm	376	nm
Net income Group share	612	nm	2,505	nm

* 2012 年度の業績は、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジ、CA ブルガリア、CACF の北欧子会社の再分類とコンプレックス・デリバティブ取引の一部の評価変更を含みます。

2013 年度第 4 四半期のクレディ・アグリコル S.A.の収益は、前年同期比で 21.9% 増の 40 億 5,000 万ユーロに達しました。収益には、クレディ・アグリコル S.A.のスプレッド改善に伴う自社債の再評価、DVA running、CVA/DVA Day 1 の影響、及びローン・ヘッジに由来する当四半期における 2 億 3,000 万ユーロのマイナス影響が含まれます。更に、バンキスター株の処分による 5,300 万ユーロの売却益が含まれます。2012 年度第 4 四半期の収益は、発行体スプレッド、ローン・ヘッジ及び事業適応計画の影響に関連する 8 億 2,300 万ユーロの費用を含んでいます。特殊要因¹に関して修正再表示後の事業部門の収益は、健全な事業展開を反映して 3.2% 増加しました。

2013 年度第 4 四半期の**営業費用**は、前年同期比で 4.0% 減少しました。これで、4 四半期連続でコストを節減したことになります。IT 費用、購買、及び不動産関連支出をカバーする「MUST」プログラムの下で、2012 年と 2013 年に総額 3 億 5,100 万ユーロの節減を達成しました(2013 年度単独の 2 億 2,600 万ユーロを含む)。すなわち、2011 年に当グループが設定した目標を 3,100 万ユーロ上回りました。

2013 年度第 4 四半期の**営業総利益**は、11 億 5,600 万ユーロに達しました。

¹ 2012 年度:発行体スプレッド、ローン・ヘッジ、事業適応計画費用。2013 年度:発行体スプレッド、ローン・ヘッジ、CVA/DVA。

2013 年度第 4 四半期のリスク関連費用は、2012 年度第 4 四半期の 10 億 3,000 万ユーロに対して 8 億 8,300 万ユーロでした。アゴス・デュカトが、この改善に最も寄与しました。アゴス・デュカトの 2013 年度第 4 四半期のリスク関連費用は、2012 年度第 4 四半期の 4 億 1,600 万ユーロから 2 億 2,900 万ユーロ減少して 1 億 8,700 万ユーロでした。更に、その不良債権の一部の売却(14 億ユーロ。ほぼ完全に減損処理されました)は、不良債権引当率に対する追加貸倒引当金の影響を上回るものです。

2013 年 12 月末現在、不良債権残高(対顧客ファイナンス・リースを除く)は、前年末の水準に近い 152 億万ユーロ(-1.4%)でした。これは、顧客及び銀行間のローン総残高の 3.9%に相当します(2012 年 12 月末現在は 3.6%¹)。特定引当金によってカバーされる不良債権の比率は、2012 年 12 月末現在の 57.3%¹に対して 2013 年 12 月末現在では 53.3%となりました。一般引当金を含めると、不良債権の引当率は 2013 年末現在で 71.7%でした。残高に対する引当率は、利用可能な担保または保証を差し引かずに計算しています。引当率は、引当金によってほぼ完全にカバーされた第 4 四半期中のアゴス・デュカトの貸出不良債権の処分(14 億ユーロ)による影響前で 73.7%であり、2013 年 9 月末現在の引当率と比べて安定しています。保証がなされていることを理由に構造的に低めの引当率となっているイタリアでの不良債権は、その相対的なウェイトが増しました。

2013 年度第 4 四半期の持分法適用会社の利益は、2 億 600 万ユーロに達しました。参考までに、2012 年度第 4 四半期の利益には、SAS Rue La Boetie 及び SACAM インターナショナルの株式の減損(-1 億 4,100 万ユーロの合計影響額)、地域銀行の合併に基づく株式の評価調整、及び BES 株の減損(-2 億 6,700 万ユーロの影響額)が含まれます。

その他の資産の純利益は、2013 年度第 4 四半期に 1 億 400 万ユーロに達しました。これには、コープレート・センターで計上されたパリの資産及び Eurazeo 株の処分による 8,800 万ユーロの売却益が含まれます。

クレディ・アグリコル S.A.は、2013 年度にのれん代減損を認識しませんでした。2012 年度第 4 四半期ののれん価値の変動額は-28 億 2,300 万ユーロでした。

2013 年度第 4 四半期には、2 億 6,400 万ユーロの税効果が認識されました。これには、2013 年 1 月にエンポリキが実施した最後の増資にかかる損失の税控除に関連する 2 億 2,300 万ユーロ、及びイタリアでの税率と税控除ルールの規制変更に伴うカリバルマとアゴス・デュカトに関する 5,700 万ユーロの税効果が含まれます。

非継続事業または売却目的保有事業の純利益は、主にエンポリキの売却に関連する前年の-10 億 7,900 万ユーロに対して、2013 年度第 4 四半期は-1 億 3,200 万ユーロでした。これには、IFRS 第 5 号に従ったブルガリアの子会社と CACF の北欧子会社の再分類に伴う、前者の売却計画に関連する-3,900 万ユーロと後者の売却計画に関連する-9,900 万ユーロが含まれます。

クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、前年同期の-39 億 500 万ユーロに対して 2013 年度第 4 四半期は 6 億 1,200 万ユーロとなりました。さまざまな特殊要因と経常外項目は、2013 年度及び第 4 四半期には互いにおおむね帳消しとなりました。

¹ IFRS 第 5 号に従ってニューエッジ、CA ブルガリア、CACF の北欧子会社の再分類に関して修正再表示。

2013 年通年の収益は、前年と比べて微増となる 160 億 1,500 万ユーロでした。営業費用は、徹底したコスト管理のおかげで、2012 年度比で 3.0% 減の 112 億 7,700 万ユーロとなりました。コスト比率は改善し、2.5 ポイント縮小して 70.4%となりました。リスク関連費用は 29 億 6,100 万ユーロでした。この改善は主に、アゴス・デュカトでのリスク関連費用の削減によるものです。持分法適用会社からの利益は、2013 年に 10 億 7,400 万ユーロに達しました。プローカレッジ事業の売却による影響額が、CA ブルガリア及び CACF の北欧子会社の売却計画に関連する第 4 四半期の損失を相殺した結果、非継続事業または売却目的保有事業の純利益は 5,400 万ユーロに達しました。純利益グループ帰属分は、25 億 500 万ユーロでした。さまざま特殊要因が、互いにおおむね帳消しにされ、そのために特殊要因前の純利益グループ帰属分は報告した数字に近いものとなりました。

ソルベンシー

コア・ティア 1 レシオは、2013 年 12 月 31 日現在で 10.0%となり、同年 9 月 30 日現在の 9.4%から 60 ベース・ポイント改善しました。ティア 1 レシオは、2013 年 9 月 30 日現在と比べて 50 ベース・ポイント高い 10.9%へ、グローバル・レシオは同年 9 月末現在の 15.4%から 12 月末時点では 15.8% へそれぞれ上昇しました。

有機的資本生成(当四半期の余剰金を含む)は、コア・ティア 1 レシオの上昇に 15 ベース・ポイント寄与しました。

カリパルマがそのリテール・エクスポージャに関して IRB 法を導入したこと、18 ベース・ポイントが更に加わりました。なお、保険事業の特定取り扱いは、2013 年 9 月 30 日時点のものと同一です。

リスク・ウェイト資産は、2013 年 9 月 30 日現在の 3,099 億ユーロから 2,996 億ユーロへと減少しました。

完全適用後バーゼル 3CET1 レシオは、2014 年 1 月 2 日現在で 8.3%でした。

流動性

2013 年 12 月末現在におけるクレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2012 年 12 月末現在の 1 兆 320 億ユーロ及び 2013 年 9 月末現在の 1 兆 490 億ユーロに対して 1 兆 390 億ユーロでした。

短期ホールセール資金(レポを含む)は、2013 年末現在で総額 1,680 億ユーロとなりました。これは、通年で 30 億ユーロの減少、2013 年度第 3 四半期と比べて 200 億ユーロの減少です。2013 年 12 月 31 日現在のバランスシート流動資産は、2012 年 12 月 31 日時点の 2,180 億ユーロ、2013 年 9 月 30 日時点の 2,460 億ユーロに対して 2,390 億ユーロでした。

長期の利用可能資金に対する長期資金調達源の超過額は、2013 年 12 月 31 日現在で 710 億ユーロであり、これは、2012 年 12 月 31 日時点と比べて 240 億ユーロの増加、2013 年 9 月 30 日時点と比べて 130 億ユーロの増加です。

ヘーカット後の流動性準備金は、2013 年に 90 億ユーロ増加して 2,390 億ユーロに達しました。この準備金は、2012 年度第 4 四半期と同様に 2013 年の第 3 四半期と第 4 四半期の総短期債務の 168%をカバーしました。

クレディ・アグリコル・グループのさまざまな発行体は、2013 年に市場及び支店ネットワークにおいてシニア債によって 317 億ユーロを調達しました。クレディ・アグリコル S.A.自体は、2013 年にシニア債により 155 億ユーロを調達しました。これは、2013 年について 120 億ユーロに設定された中・長期市場発行プログラムを上回るものです。調達資金の平均期間は、2012 年の 6.3 年に対して 6 年、ミッド・スワップに対する平均スプレッドは 2012 年の 122 ベース・ポイントに対して 65.9 ベース・ポイントでした。2014 年の中・長期シニア市場発行プログラムは、100 億ユーロに設定されました。2014 年 1 月 1 日から 2 月 12 日までに 40 億ユーロのシニア市場資金が調達され、2013 年 2 月 12 日現在で既にプログラムの 40%が完了しました。更に、クレディ・アグリコル S.A.は、2013 年 9 月に 10 億米ドルのティア 2 コンテンジエント・キャピタルの発行、続いて 2014 年 1 月に 17 億 5,000 万米ドルの追加ティア 1 発行を完了しました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4	2013	Change 2013/2012
Net income accounted for under the equity method (at ~ 25%)*	225	+5.6%	906	+4.0%
Change in share of reserves	5	nm	158	+5.3%
Share of income from equity affiliates*	230	+9.5%	1,064	+4.2%

* 2012 年と 2013 年における SACAM インターナショナル及び SAS Rue La Boetie の減損・公正価額調整の変動を修正再表示。

持分法の下でのクレディ・アグリコル S.A.の純利益に対する地域銀行の寄与(業績の約 25%)は、2013 年度第 4 四半期に 2 億 3,000 万ユーロとなり、これは前年同期比で 9.5% 増です(持分株式の減損・公正価額調整のマイナス影響に関して修正再表示)。2013 年通年では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益に対する地域銀行の寄与は、2012 年度比で 4.2% 増の 10 億 6,400 万ユーロでした(上記のマイナス影響について修正再表示後)。

地域銀行は、わずかに改善しつつある市場において引き続きそれぞれの事業を拡大しました。

地域銀行は、預金業務において全般的に堅調な成績を上げ、預金は前年同期比で 3.2% 増の 5,926 億ユーロに達しました。この伸びをけん引したのはオン・バランスシート預金であり、2013 年 12 月末現在で前年比 4.2% 増の 3,478 億ユーロに達しました。これは、非課税貯蓄性預金(6.3% 増)と要求払預金(7.8% 増)の特に好調な成績によるものです。住宅購入貯蓄プランの預金は、通年でわずかに上向き(1.9% の伸び)、他方、定期預金口座は 0.5% 縮小しました。オフ・バランスシート預金は、前年同期比で 1.7% 増加しました。主にこれけん引したのは生命保険であり、2013 年中の Livret A 預金口座の利率引き下げが新たな関心を刺激し、3.8% の伸びを記録しました。

2013 年 12 月 31 日現在のローン残高は、入り混じった傾向を反映し、前年比で 0.4% 増の 3,976 億ユーロに達しました。住宅ローンは、前年比で 2.5% の増加を示す一方、消費者信用残高と中小企業及びスマール・ビジネス向けローン残高は、12 ヶ月間にそれぞれ 5.5%、4.7% 減少しました。

この結果、預貸比率は、2012 年 12 月末時点の 126% から 2013 年 12 月末時点では 121% へと改善しました。この改善をけん引したのは、オン・バランスシート預金とローンの伸びに加えて、預金供託公庫(Caisse des Dépôts et Consignations)に譲渡された規制貯蓄性預金の支払利率の切り下げです。

地域銀行の収益(グループ内取引修正後)は、2012 年度第 4 四半期と比べて 2.0% 増の 36 億 1,200 万ユーロに達しました(2012 年と 2013 年における SACAM インターナショナル、SAS Rue La Boetie の減損・公正価額調整、及び住宅購入貯蓄プランの影響額に関して修正再表示)。純金利マ一

ジンは、主に低下する資金コストと継続的な早期返済にけん引されました。2013 年度第 4 四半期の手数料収入は、保険事業の力強い伸びに支えられた 2012 年度第 4 四半期と比べて 2.5% 低下しました。

2013 年度第 4 四半期の営業費用は、前年同期比で 1.5% 減の 19 億 9,900 万ユーロとなりました。この減少は主に、地域銀行の情報システムの統合を目指す NICE プロジェクトの終了と CICE 税額控除の影響によるものです。そのため、コスト比率は 55.3% となりました。

2013 年度第 4 四半期の営業利益は、リスク関連費用の 1 億 2,100 万ユーロ(2012 年度第 4 四半期の 15 ベーシス・ポイントに対してローン残高の 13 ベーシス・ポイント)を控除後で 14 億 9,200 万ユーロとなりました。2013 年 12 月末現在の不良債権比率は、前年の 2.4% に対して 2.5% でした。2013 年 12 月末現在の引当率(一般引当金を含む)は、前年 12 月末現在の 107.6% に対して 106.9% という高水準を維持しました。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4	2013	Change 2013/2012
Revenues	935	+1.8%	3,811	(2.0%)
Operating expenses	(645)	+0.8%	(2,514)	(0.3%)
Gross operating income	290	+3.9%	1,297	(5.3%)
Cost of risk	(86)	+11.3%	(304)	(2.4%)
Operating income	204	+1.1%	993	(6.1%)
Net income on other assets	-	nm	5	nm
Income before tax	204	+0.1%	998	(5.7%)
Tax	(92)	+22.6%	(368)	+1.8%
Net income	112	(12.8%)	630	(9.7%)
Non-controlling interests	5	(12.3%)	31	(9.5%)
Net income Group share	107	(12.8%)	599	(9.7%)

LCL は、先行する各四半期の趨勢に沿って、2013 年度第 4 四半期も良好な事業展開を維持しました。2013 年 12 月 31 日現在のローン残高は、前年比で 0.3% 増の 895 億ユーロに達しました。この伸びは、住宅ローンが前年比で 2.3%、前四半期比で 0.7% 増の 564 億ユーロに増加したことによるものです。スマート・ビジネス顧客及び法人顧客向けのローンは、前年同期比で 2.8% 減の 264 億ユーロへとわずかに減少し、他方、消費者信用残高は 2013 年 12 月 31 日現在で 3.3% 減の 67 億ユーロとなりました。

顧客預かり資産は、ネットワークにおける力強い展開にけん引されて引き続き堅調な伸びを記録しました。2013 年 12 月末現在の顧客預かり資産は、前年比で 4.1% 増の 1,632 億ユーロに達しました。オン・バランスシート預金は、8.3% 増の非課税貯蓄性預金と 7.0% 増の要求払預金にけん引され、前年比で 6.8% 増加しました。オフ・バランス預金は前年比で 1.3% 増加しました。これは主に、生命保険残高が当四半期中に 4.2% 増加して 2013 年 12 月末現在で 534 億ユーロとなったことによるものです。

このため、2013年12月末現在の預貸比率は通年で7ポイント改善の109%となりました。この改善をけん引したのは、オン・バランスシート預金とローンの増加傾向に加えて、預金供託公庫に譲渡された規制貯蓄性預金の金利の切り下げです。

第4四半期の収益は、前年同期比1.8%増の9億3,500万ユーロでした(住宅購入貯蓄プラン引当金に関して修正再表示した場合は安定)。収益のこうした回復力は、顧客ビジネスの金利マージンの強みに加えて、2013年度第4四半期に手数料が前年比で2.6%増加(証券管理手数料の16.1%増がけん引)したこと反映するものです。したがって、新規事業のマージンは既存の顧客ビジネスのマージンを引き続き上回っているものの、住宅ローンの早期返済の増加によって増幅された低金利環境の長期化の中で、変革マージンは縮小しつつあります。2013年通年では、収益の低下は0.7%にとどまりました¹。

営業費用は、MUST及びPSF(Plan Stratégique Frais)の費用削減計画による効果のおかげで、引き続き十分に抑制されました。営業費用は、2013年度第4四半期に前年同期比で0.8%増加したもの、通年では0.3%減少しました。コスト比率は、当四半期が69.7%、2013年通年では65.9%¹で2012年度をわずかに上回りました(+0.3ポイント)。

リスク関連費用は、法人向けローンの一部減損によるマイナス影響のために当四半期には前年同期比で11.3%増加したものの、通年では2.4%の減少となりました。2013年12月末現在、ローン残高全体に対する不良債権比率は2.5%、不良債権引当率(一般引当金を含む)は74.7%でした。

全体では、2013年度第4四半期の純利益グループ帰属分は1億700万ユーロとなり、収益の回復とコストの抑制にもかかわらず前年同期比で21.3%²減少しました。当第4四半期の純利益は、フランスの法人所得税率が36.1%から38.0%へ引き上げられたことに加えて、当第4四半期中のリスク関連費用の増加による影響を受けました。2013年通年の純利益グループ帰属分は、前年比で3.9%¹減の5億9,900万ユーロでした。

¹ 2012年度と2013年度における住宅購入貯蓄プランの影響額と2012年度第1四半期におけるEIC引当金の戻入に関する修正再表示後。

2. 國際リテール・バンキング

2013 年度第 4 四半期の当事業部門の純利益グループ帰属分は-2,200 万ユーロでした。これは、クレディ・アグリコル・ブルガリアの売却計画(-3,900 万ユーロ)及び BES の持分法適用業績(-2,900 万ユーロ)の影響額を含んでいます。これら 2 つの項目を除くと、純利益グループ帰属分は 4,600 万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4*	2013	Change 2013/2012*
Revenues	628	+3.2%	2,436	(1.1%)
Operating expenses	(391)	(17.7%)	(1,517)	(10.6%)
Gross operating income	237	+77.2%	919	+19.9%
Cost of risk	(169)	+7.6%	(604)	+17.4%
Operating income	68	nm	315	+24.9%
Equity affiliates	(27)	nm	(98)	(75.1%)
Net income on other assets	-	nm	9	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	41	nm	226	nm
Tax	(12)	nm	(91)	+82.6%
Net income on discontinued operations	(37)	nm	(26)	nm
Net income	(8)	nm	109	nm
Non-controlling interests	14	nm	61	nm
Net income Group share	(22)	nm	48	nm

* 2012 年度は、IFRS 第 5 号に従った CA ブルガリアの再分類に関して修正再表示されています。

イタリアでは、カリパルマが国内銀行部門全体と同様に、長期化する厳しい経済環境に直面しました。2013 年 12 月 31 日現在のローン残高は、前年同日比で 0.9% 減の 331 億ユーロでした。これは、市場が 7.3%¹ 低落する中では好成績と言えるものです。オン・バランスシート預金の合計額は、前年同期比で 1.6% 増の 362 億ユーロに増加する一方、市場は 3.3% の減少¹ を記録しました。カリパルマは 31 億ユーロのローンを超過する預金を生み出し、その結果当グループの他のイタリア子会社(Calit、アゴス・デュカト、FGA カピタル)へのファンディングに寄与しました。カリパルマのオフ・バランスシート預金は、2013 年 12 月末現在で 509 億ユーロに達しました。生命保険と投資信託は、極めて好調であり、通年で 9.6% の伸びを記録しました。

¹ 出典:イタリア銀行協会

2013 年度第 4 四半期の収益は、前年同期比で 2.3% 増の 4 億 1,300 万ユーロに達しました。通年の収益は、年初における一連の展開のために 2.8% の減少となりました。

2013 年度第 4 四半期の営業費用¹は、前年同期比で 5.6% 減、通年では 4.9% 減となりました。2013 年度第 4 四半期のコスト比率は、前年同期¹と比べて 5.0 ポイント改善の 59.3% となり、改革の著しい効果を示しました。

リスク関連費用は、困難な経済環境による不利な影響に引き続きさらされ、2013 年度第 4 四半期は、イタリア中央銀行による追加引当金(3,900 万ユーロ)の要請の影響を受けた 2012 年度第 4 四半期と比べて 20.5%² 減の 1 億 2,900 万ユーロでした。リスク関連費用は、通年で 3.1%² 増加しました。合計残高に対する不良債権比率は 10.4%、引当率は 45.7%(2012 年 12 月 31 日現在では 45.4%) でした。

なお、2012 年度第 4 四半期は、のれん代減損テスト後の減損費用の影響を受けました(結果として、イタリア国内のリテール・バンキングに関して 8 億 5,200 万ユーロという顕著な費用が発生しました)。

そのほか、2013 年度第 4 四半期は、イタリアでの税率と税控除ルールの規制変更に関する 1,100 万ユーロの税効果の恩恵を受けました。

全体では、純利益グループ帰属分は、2013 年度第 4 四半期には 2,000 万ユーロ、2013 年通年では 1 億 400 万ユーロ² となりました。

当グループの他の国際銀行は、2013 年 12 月 31 日現在のオン・バランスシート預金額が 109 億ユーロ、ローン総額が 102 億ユーロに達し、預金がローンを超過しました。BES の持分法適用業績(2013 年度第 4 四半期で-2,900 万ユーロ、2013 年通年で-1 億 500 万ユーロ)、及びクレディ・アグリコル・ブルガリア(-3,900 万ユーロ)の売却計画のマイナス影響額を除いた場合、純利益グループ帰属分に対する他の当グループ国際銀行の寄与分は、2013 年度第 4 四半期が 2,600 万ユーロ、通年では 1 億 900 万ユーロでした。通年の数字は、ポーランド子会社の 4,300 万ユーロ、ウクライナ子会社の 3,700 万ユーロ、クレディ・アグリコル・エジプトの 2,700 万ユーロ、及びクレディ・ドゥ・マロクの 1,900 万ユーロを含んでいます。

¹ 2012 年度第 2 四半期及び第 4 四半期における自主早期退職の費用(それぞれ 5,400 万ユーロ、6,400 万ユーロ)を除く。

² 2012 年度第 4 四半期にコーポレート・センターで計上された追加引当金及び 2013 年度第 1 四半期におけるカリバルマの寄与分の修正再表示後。

3. 資産管理(SAVINGS MANAGEMENT)

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。

2013 年には、当部門の資産運用額は 477 億ユーロ増加し、1 年間の資金流入(純額)はアムンディが 103 億ユーロ、CA アシュアランスが 54 億ユーロとなりました。全てのセグメントでの堅調な事業展開に加えて、当部門は、マーケットと為替で極めて好ましい影響を受けました(+299 億ユーロ)。2013 年 12 月 31 日現在の総資産運用額は 1 兆 1,440 億ユーロとなりました。

2013 年度第 4 四半期の資産管理部門の純利益グループ帰属分は、前年同期比 4 億 4,600 万ユーロ減の 3 億 6,700 万ユーロとなりました。この中には、フランスでの法人税率の引上げの影響(4,400 万ユーロの支出)と、前年同期の保険事業の内部負債増加(四半期当たり 1,800 万ユーロの正味影響)が含まれます。

2013 年度の当部門の純利益グループ帰属分は、15 億 6,300 万ユーロとなりました。アムンディによる 2012 年のハミルトン・レーン(Hamilton Lane)の売却益を修正再表示し、フランスの税率上昇による影響(4,400 万ユーロ)とクレディ・アグリコル・アシュアランスのレバレッジ・オペレーション(7,200 万ユーロ)を除くと、当部門の純利益グループ帰属分は、2012 年に比べて安定を維持しました。

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4	2013	Change 2013/2012
Revenues	1,349	+3.5%	5,130	(0.6%)
Operating expenses	(647)	+4.8%	(2,494)	+3.9%
Gross operating income	702	+2.4%	2,636	(4.4%)
Cost of risk	(27)	x9.2	(27)	(51.1%)
Operating income	(675)	(1.1%)	2,609	(3.5%)
Equity affiliates	5	+70.5%	16	+51.4%
Net income on other assets	2	ns	2	(95.3%)
Income before tax	682	(0.6%)	2,627	(4.2%)
Tax	(270)	+37.2%	(901)	+6.2%
Net income	412	(15.9%)	1,726	(8.9%)
Non-controlling interests	45	+5.4%	163	(6.1%)
Net income Group share	367	(17.9%)	1,563	(9.2%)

資産運用部門では、アムンディは、フランスのリテール・ネットワークを除いて、すべての顧客セグメントでの資金流入(純額)により堅調に事業を展開しました。大規模な資金流出(純額)が生じているフランス市場において、アムンディには、機関投資家からの 127 億ユーロとアジアのジョイントベンチャーを中心に、海外のネットワーク・セグメントからの 48 億ユーロなど 2013 年に 103 億ユーロの資金流入(純額)がありました。最終的には、グループ外の販売会社は、マネー・マーケット・ファンドを除いて 28 億ユーロの資金流入(純額)を記録しました。フランスのリテール・ネットワーク全体の資金流出(純額)は、通年で総額 99 億ユーロとなりましたが、第 4 四半期は 3 億ユーロの流出にとどまり、通年では 2012 年

を下回りました。アムンディのこの市場でのシェアは、前年比 0.3%増の 26.9%となりました(出典:ユーロパフォーマンス NMO、2013 年 12 月、フランス籍オープン・エンド型ファンド)。

資産運用総額は、2012 年 12 月 31 日時点での 7,396 億ユーロに対して 5.1%増の 7,771 億ユーロとなりました(アジアのジョイントベンチャー100%を含む)。この数字には、2013 年度第 3 四半期に買収した米国企業のスミス・ブリーデン(資産運用額は 47 億ユーロ)の連結化と、市場と通貨のプラス効果(224 億ユーロ)が含まれています。

資産別では、資金流入が主にロングアセットから生じる一方で(+91 億ユーロ)、マネー・マーケットの資産が増加して、契約市場での+12 億ユーロにより当年度はプラスとなりました。このセグメントでのアムンディの市場シェアは、ここ 2 年間で欧州では 2%強増加して 12.5%に達しました(出典: Lipper FMI Fundlife、2013 年 11 月、欧州籍オープン・エンド型ファンド)。

アムンディは、2013 年に大幅な業績改善を達成しました。同社の通年の純利益グループ帰属分は、2012 年度比 5.2%増の 4 億 4,400 万ユーロを記録しました(2012 年度第 1 四半期のハミルトン・レーン(Hamilton Lane)の売却益を修正再表示)。収益が前年比 3.0%増となる一方で、営業費用は 2.3% 増と引き続き抑制されました。生産性の上昇により、海外展開と税金・社会保障費用の増加に対して十分に資金を手当てできました。したがって、コスト比率は、54.6%という非常に高い競争レベルを引き続き達成しました(第 4 四半期は 52.6%)。当第 4 四半期の収益は、主に高水準のパフォーマンスに基づいた手数料収入により 6.4%増加する一方、営業費用の増加は 1.3%に抑制されました。純利益グループ帰属分は、2013 年度第 4 四半期では前年同期比 8.3%増の 9,200 万ユーロ、通年では 5.0%増の 3 億 2,500 万ユーロとなりました。

資産運用サービス部門では、**CACEIS** は、カストディーと資産管理の 2 つのセグメントが事業部門としての成功を収め、組織的な成長を力強く維持しています。通年の資産管理額は、4.7%増の 1 兆 3,090 億ユーロを記録しました。カストディー資産は、2013 年 4 月の預金供託公庫の解約により 9.5% 減の 2 兆 2,540 億ユーロとなりました。他の顧客のカストディー資産は 5%増となりました。当部門の純利益グループ帰属分は、2013 年度第 4 四半期には前年同期比 69.5%増の 4,390 万ユーロと急増しました。通年の純利益グループ帰属分は、2012 年の 1 億 4,780 万ユーロからほぼ横ばいの 1 億 4,700 万ユーロとなりました。

プライベート・バンキングは、困難な状況の中で成長を維持しました。2013 年 12 月 31 日現在の運用資産は、マーケットの影響(+43 億ユーロ)が有利に作用したことで、2012 年 12 月末時点比で安定を維持して 1,322 億ユーロとなりました。これは、資金流出(純額)と為替のマイナス影響を相殺しました。この結果、運用資産は、フランスにおいては通年で 2.3%増の 618 億ユーロを記録する一方、国外では通年で 1.9%減の 704 億ユーロとなりました。

2013 年度第 4 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比で大幅減の 410 万ユーロとなりました。これは、国債の値上がりと引当金の戻入れにより、比較基準が 5,180 万ユーロと高くなりました。2013 年度第 4 四半期には、例外的費用の影響も記録しました。通年の純利益グループ帰属分は、29.0%減の 9,880 万ユーロとなりました。

保険部門では、2013 年度第 4 四半期の保険料収入は 62 億ユーロで、通年では 264 億ユーロでした。

生命保険¹は、事業活動が急速に回復した 2012 年度第 4 四半期と 2013 年度第 1 四半期の傾向に従って、2013 年度は市場成長を上回りました。フランス国内では、2013 年度の保険料収入が前年比 14.9% 増の 186 億ユーロに達する一方で、市場成長は 6% でした(出典:FFSA、2013 年末のデータ)。第 4 四半期の保険料収入は 46 億ユーロでした。2013 年の海外での保険料収入は、前年比 20.4% 増を記録しました。全体では、運用資産は、2013 年の 54 億ユーロの資金流入(純額)(フランス国内での 43 億ユーロを含む)を主な理由として、2013 年 12 月末時点での前年比 4.6% 増の 2,350 億ユーロとなりました。2013 年 12 月 31 日時点でのユニット・リンク型保険事業は全体の 18.4% を占めました。

損害保険は、成長を維持し、特にフランスでは成長がマーケットを上回りました。フランス国内での 2013 年の保険料収入は、通年で 6.2% 増の 26 億ユーロとなる一方、マーケットの伸びは 2% でした(出典:FFSA、2013 年末のデータ)。2013 年度第 4 四半期の保険料収入は、前年同期比で増加となる 5 億 800 万ユーロを記録しました。損害保険の保険料請求に対する支払い件数の割合(再保険後)は、夏季及び 2013 年末の異常気象にもかかわらず、厳しく抑えられて 2013 年度は 70.9% でした。

団体信用保険は、住宅ローンが堅調だったにもかかわらず、消費者金融市場の減速によって 2013 年度は引き続き低迷しました。2013 年の保険料収入は、第 4 四半期の 2 億 4,700 万ユーロを含む 9 億 3,200 万ユーロでした。

海外の保険事業では、保険料収入(生命保険及び損害保険。但し団体信用保険と BES Vida を除く)は、2013 年度が 42 億ユーロで、2013 年度第 4 四半期が 9 億 2,500 万ユーロとなりました。

2013 年度第 4 四半期の保険部門の収益は、前年同期比 9.2% 増の 6 億 100 万ユーロとなり、通年では 1.8% の伸びでした。営業費用は引き続き抑えられました。但し、ギリシャのソブリン債をめぐる税額計算上の一時的な影響分は除いています(2011 年は 6,900 万ユーロのマイナス影響額があり、2012 年は 4,500 万ユーロのプラス影響額がありました)。2013 年度第 4 四半期の費用は前年同期比 1.4% 減、通年では 1.7% 減となしました。

2013 年度第 4 四半期の税引き前利益は、活動面での保険事業の好業績を反映して前年同期比で 14.1% 増を記録しました。しかし、純利益グループ帰属分は、通年で影響を及ぼし、2013 年度第 4 四半期に計上された税率引上げの影響を受けました(3,500 万ユーロの追加費用)。2012 年度第 4 四半期と比べると、これには、2012 年 12 月末に実施された資本構造の変更に際してのファイナンス費用が含まれています。この資本構造の変更は、バーゼル 3 の要件を満たすために実施され、収益において認識される四半期当たり 1,800 万ユーロの費用を示しています。全体では、2013 年の純利益グループ帰属分は、第 4 四半期の 2 億 2,700 万ユーロ(上記の 2 つの影響を除くと 2 億 8,000 万ユーロ)を含めて、前年同期比 1.4% 減の 9 億 9,200 万ユーロとなりました。通年でのこの 2 つの影響を修正再表示すると、純利益グループ帰属分は、前年比 1.7% 増の 10 億 9,900 万ユーロとなりました。

保険事業では、投資に関しては引き続き保守的な戦略を追求しました。クレディ・アグリコル・アシュアランスのイタリア、スペイン、アイルランド、ポルトガルの国債の保有残高の合計は、2013 年末時点では 1 年間で 9 億ユーロ減の 70 億ユーロでした。更に、債券関連の商品が引き続き投資の大部分を占め、2012 年末現在の投資全体の 79.4% から 82.2% へと上昇しました。短期投資は前年比で大幅減と

¹ 2012 年度第 2 四半期に BES に売却された BES Vida について修正再表示。

なる 2.7%、不動産は 5.3%(建物、不動産及び不動産投資法人の株式等)、オルタナティブ投資は 1.7%、その他の投資(ヘッジのために調整)は 5.3%、その他の商品(プライベート・エクイティ、転換社債等)は 1.7%となっています。最後に、クレディ・アグリコル・アシュアランス(CAA)は 2013 年も、大企業や地方自治体に金融ソリューションを提供することで、当グループの銀行と共にフランス経済への資金供給で大きな役割を果たしていることを確認しました。CAA は、フランス経済に総額 90 億ユーロ以上を投資しており、この中には、主に格付けを持たない企業や地方自治体の企業・機関への融資という形での革新的な資金融資としての 21 億ユーロが含まれています。

4. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4*	2013	Change 2013/2012*
Revenues	792	(0.4%)	3,218	(4.3%)
Operating expenses	(403)	(0.4%)	(1,548)	(1.8%)
Gross operating income	389	(0.4%)	1,670	(6.6%)
Cost of risk	(361)	(40.3%)	(1,514)	(27.3%)
Operating income	28	nm	156	nm
Equity affiliates	9	+63.2%	29	+49.2%
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	37	nm	185	nm
Tax	19	nm	(68)	(25.9%)
Net income on discontinued operations	(94)	nm	(76)	nm
Net income	(38)	(96.6%)	41	nm
Non-controlling interests	8	nm	(43)	(80.7%)
Net income Group share*	(46)	(95.7%)	84	nm

* 2012 年度は、IFRS 第 5 号に従った CACF の北欧子会社の再分類に伴い修正再表示しました。

クレディ・アグリコル・消費者金融(CACF)は、今後も利益の大きい事業への重点見直しを行い、資金源を分散化します。CACF は、2013 年度第 4 四半期にいくつかの北欧子会社¹の売却に着手し、17 億ユーロの貸出不良債権を含む 27 億ユーロの融資を売却しました。2013 年 12 月 31 日時点での CACF の連結残高は、前年 12 月と比較して 43 億ユーロ減の 433 億ユーロとなりました。管理下にある消費者信用残高は、2012 年 12 月の水準から 20 億ユーロ増加し、クレディ・アグリコル・グループのために管理する残高は 90 万ユーロ減となりました。2013 年 12 月 31 日現在で CACF が管理する消費者信用残高総額は、前年同日比で 32 億ユーロ減となる 700 億ユーロでした。地理的な内訳は、前期とほぼ変わらず、フランスが 38%(2013 年度第 3 四半期比で 1 ポイント上昇)、イタリアが 33%(同 1 ポイント低下)、その他の国が 29%でした。

同様に、**クレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリング(CAL&F)**では、2012 年度に始まった残高の下方傾向が続きました。その結果、2013 年 12 月 31 日現在のリース・ファイナンス資産は前年同日比で 4.1%減の 159 億ユーロとなりました。フランス国内での管理資産は、当期中に 5.4%減少しました。2013 年 12 月 31 日現在の売掛債権は 155 億ユーロとなり、前年同日比で 6.0%増となりました(フランスでは当期中に 4.0%増となりました)。

この部門全体の当第 4 四半期の収益は、前年同期比で 0.4%減の 7 億 9,200 万ユーロとなりまし

¹ このプロジェクトは、関連する労働者評議会との協議及び所管規制当局の認可を前提とします。

た。通年の収益は 4.3%減となりました。計上されたローン売却収益への影響(2,100 万ユーロ)を除くと、当第 4 四半期の収益は前年同期比で 2.2%増となります。

営業費用は、CACF と CALEF の双方で抑制され、前年同期比で 0.4%減、通年では 1.8%減となりました。コスト比率は、2013 年度については 48.1%、当第 4 四半期では 50.8%となりました。

リスク関連費用は、主にアゴス・デュカトの債務解消により改善を見せました。2013 年度第 4 四半期のイタリアの消費者金融子会社のリスク関連費用は、前四半期の 2 億 400 万ユーロに対して 1 億 8,700 万ユーロ(2012 年度第 4 四半期は 4 億 1,600 万ユーロ)となりました。通年のリスク関連費用は、前年の 13 億 7,900 万ユーロに対して 8 億 4,700 万ユーロとなりました。当第 4 四半期に売却された融資のうち、14 億ユーロは、アゴス・デュカトが保有する貸出不良債権でした(つまり、同社の貸出不良債権の 48%)。この結果、アゴス・デュカトの不良債権比率は、前四半期の 16.7%から 10.5%に低下しました。一般引当金を含む引当率は、当第 4 四半期は 101.7%となりました。

更に、2013 度第 4 四半期は、イタリアでの新しい税控除規則により 4,600 万ユーロの税効果から恩恵を受けました。

最後に、北欧子会社の売却計画により、のれん代の 1 億 8,600 万ユーロを含めて、当第 4 四半期に非継続事業の利益への 9,400 万ユーロのマイナス金額の再分類を行うこととなりました(IFRS 第 5 号)。したがって、この売却は当グループのソルベンシーにプラス影響を及ぼしました。

全体では、純利益グループ帰属分は、当第 4 四半期が 4,600 万ユーロ、通年では 8,400 万ユーロとなりました。北欧事業の売却の影響を除くと、純利益グループ帰属分は前年同期比で 5,300 万ユーロ増、前年比では 1 億 8,300 万ユーロ増を記録しました。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2012 年度と 2013 年度に関する以下の表は、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジの再分類を反映しています。

2013 年度第 4 四半期の CIB の純利益グループ帰属分¹は、1 億 3,800 万ユーロに達しました。

2013 年度第 4 四半期の継続事業の純利益グループ帰属分は、3,500 万ユーロでした。ローン・ヘッジ(-2,200 万ユーロ)、CVA Day1 の影響(-5,400 万ユーロ)、及び DVA running の影響(-4,000 万ユーロ)を修正再表示すると、当第 4 四半期の純利益グループ帰属分は 1 億 5,100 万ユーロとなりました。

継続事業

(in millions of euros)	Q4-13	Q4-13*	Change Q4*/Q4*	2013	2013*	Change 2013*/2012*
Revenues	750	934	+9.4%	3,463	3,718	(6.1%)
Operating expenses	(529)	(529)	(6.7%)	(2,132)	(2,132)	(3.9%)
Gross operating income	221	405	+41.0%	1,331	1,586	(9.0%)
Cost of risk	(182)	(182)	+68.6%	(493)	(493)	+71.0%
Operating income	39	223	+24.3%	838	1,093	(24.8%)
Equity affiliates	11	11	(75.9%)	115	115	(30.1%)
Net income on other assets	16	16	(39.9%)	18	18	(32.4%)
Change in value of goodwill	-	-	-	-	-	-
Income before tax	66	250	(1.1%)	971	1,226	(25.4%)
Tax	(30)	(95)	+88.0%	(296)	(390)	(7.9%)
Net income from discontinued or held-for-sale operations	(1)	(1)	nm	156	-	nm
Net income	35	154	(24.1%)	831	836	(31.7%)
Non-controlling interests	-	3	(39.6%)	18	18	(42.2%)
Net income Group share	35	151	(23.8%)	813	818	(30.9%)

* ローン・ヘッジ、CVA/DVA、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジの再分類、及び 2012 年のれん代減損費用と事業適応計画の調整後。

継続事業の業績結果は、資本市場での満足のいく実績と 2012 年の事業適応計画の影響を受けたファイナンス事業の回復を反映しています。2012 年度第 4 四半期から 2013 年度第 4 四半期までの営業費用は、事業部門とサポート部門の双方で継続しているコスト削減計画と歩調を合わせる形で 6.7%

¹ ローン・ヘッジ、CVA/DVA、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジの再分類、及び 2012 年の事業適応計画の調整後。

減となりました。2013 年度第 4 四半期のリスク関連費用は、ファイナンス事業への引当強化となりました。

ファイナンス事業

(in millions of euros)	Q4-13	Q4-13*	Change Q4*/Q4*	2013	2013*	Change 2013*/2012*
Revenues	522	558	+16.7%	2,057	2,077	(2.4%)
Operating expenses	(22)	(22)	(12.1%)	(900)	(900)	(4.9%)
Gross operating income	300	336	+49.0%	1,157	1,177	(0.3%)
Cost of risk	(176)	(176)	+49.4%	(381)	(381)	+30.1%
Equity affiliates	11	11	(75.9%)	115	115	(30.1%)
Net income Group share	91	113	(35.5%)	631	644	(16.6%)

* ローン・ヘッジ及び 2012 年ののれん代減損費用と事業適応計画の調整後。

ファイナンス事業にとって、2013 年度第 4 四半期は当年度で最高の四半期となり、ローン・ヘッジと 2012 年の事業適応計画の影響額を修正した後の収益は、前年同期比で 16.7% 増を記録しました。

当第 4 四半期のストラクチャード・ファイナンスの収益は、2012 年の事業適応計画の影響額とこれらの事業に割り当てられる流動性の低下を修正した後、前年同期比で 7.5% 増の 2 億 8,700 万ユーロを記録しました。これは主に、アセット・ファイナンス事業によってけん引されました。商業銀行部門では、2013 年度第 4 四半期の収益は、高い水準の手数料収入により前年同期比 28.4% 増の 2 億 7,100 万ユーロとなりました。2013 年度第 4 四半期のファイナンス事業の収益・流動性消費率は引き続き順調に改善し、前年同期の 0.55% から 0.65% となりました。

クレディ・アグリコル CIB は、フランス(第 1 位¹)及び西欧(第 3 位¹)でのシンジケーション部門で競争的地位を維持し、また、EMEA 地域向けの法人向けローンシンジケーションで第 3 位¹にランクされています。更に、航空機ファイナンスでも世界のリーダーの地位を維持しています²。

2013 年度第 4 四半期の営業費用は、前年同期比で 12.1% 減となりました。

2013 年度第 4 四半期のリスク関連費用は、1 億 7,600 万ユーロの引当に対する正味費用となりました。これは引当金の強化を反映しています。

2013 年度第 4 四半期の持分法適用会社からの所得帰属分は、アル・バンク・サウジ・アル・フランジ(BSF)からの寄与が低く、1,100 万ユーロに留まりました。BSF の業績は、現地の規制当局が義務付ける一般引当金の積み増しにより悪影響を受けました。

全体では、2013 年度第 4 四半期の純利益グループ帰属分は、ローン・ヘッジの修正後に 1 億 1,300 万ユーロとなりました。

¹ 出典:トムソン・ファイナンシャル

² 出典:エアファイナンス・データベース

資本市場及び投資銀行部門

(in millions of euros)	Q4-13	Q4-13*	Change Q4*/Q4*	2013	2013*	Change 2013*/2012*
Revenues	228	376	+0.1%	1,406	1,641	(10.5%)
Operating expenses	(307)	(307)	(2.3%)	(1,232)	(1,232)	(3.2%)
Gross operating income	(79)	69	+12.1%	174	409	(27.1%)
Cost of risk	(6)	(6)	nm	(112)	(112)	nm
Net income Group share	(56)	38	+66.1%	182	174	(57.2%)

* ローン・ヘッジ、CVA/DVA、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジの再分類、及び 2012 年ののれん代減損費用と事業適応計画の調整後。

2013 年度第 4 四半期の**資本市場及び投資銀行部門**の収益は、CVA/DVA の修正再表示後に 3 億 7,600 万ユーロとなり、前年同期と比較すると安定していました。

2013 年度第 4 四半期の債券による収益は、資本取引及び証券化事業による好調な業績を反映して、前年比 1.6% 増の 3 億 2,700 万ユーロを記録しました。クレディ・アグリコル CIB は、欧州 ABCP 証券化¹の主幹事部門で第 1 位を維持しました。更に、政府機関ユーロ建て債発行²では世界で第 3 位から第 2 位に浮上し、また、金融機関によるユーロ債発行²では第 2 位を維持しました。当第 4 四半期は、投資銀行部門に力強さがあり、主に証券発行の大幅な伸びが寄与して収益が前年比 41.2% 増となりました（証券会社を除く）。2013 年末にクレディ・アグリコル CIB は、フランスの投資銀行部門³で第 2 位にランクされました。

営業費用は、継続中のコスト削減計画により、2012 年度第 4 四半期から 2013 年度第 4 四半期までに 2.3% 減少しました。

2013 年 12 月 31 日現在の最大損失予想額(VaR)は 800 万ユーロ(前年同日は 900 万ユーロ)で、通年では平均で 1,100 万ユーロでした。

¹ 出典:CPWare

² 出典:トムソン・ファイナンシャル

³ 出典:Dealogic

非継続事業

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4*	2013	Change 2013/2012*
Revenues	17	(15.7%)	132	(19.2%)
Operating expenses	(48)	(17.6%)	(173)	(41.1%)
Gross operating income	(31)	(18.7%)	(41)	(68.2%)
Cost of risk	16	(57.3%)	(16)	(37.3%)
Net income Group share	(13)	nm	(38)	(51.4%)

* 2012 年の事業適応計画の調整後。

第 4 四半期の非継続事業の純利益グループ帰属分は、わずかなものにとどまり、事業適応計画の調整後の前年同期の 1,700 万ユーロに対して-1,300 万ユーロでした。

2013 年は、好ましい市場条件によって、残存する大量の CDO ポートフォリオと米国の住宅ローンのポートフォリオの大半を売却することができました。これらの売却によって、純利益グループ帰属分への影響をほとんど受けことなく、当年度はリスク・ウェイト資産の 82 億ユーロ削減を達成しました。(貴金属を除く)コモディティ及びエクイティ・デリバティブ部門からの撤退は、プレインバニラ・デリバティブ事業の停止により 2013 年に完了しました。最終的には、非継続事業について BNPP と提携契約を締結し、これにより残りのエクイティ・デリバティブ・ポートフォリオの運用を BNPP に委託しました。

6. コーポレート・センター

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4	2013	Change 2013/2012*
Revenues	(421)	(64.9%)	(2,175)	(38.1%)
o/w cost of funds	(562)	(5.3%)	(2,162)	(2.6%)
o/w financial management	134	nm	197	nm
o/w issuer spreads	(46)	(94.5%)	(591)	(61.9%)
o/w other	53	(72.7%)	381	(24.1%)
Operating expenses	(231)	(9.0%)	(899)	(1.9%)
Gross operating income	(652)	(55.1%)	(3,074)	(30.6%)
Cost of risk	(74)	nm	(3)	(98.5%)
Operating income	(726)	(50.2%)	(3,077)	(34.5%)
Equity affiliates	(22)	(8.7%)	(52)	(57.8%)
Net income on other assets	86	+5.9%	82	(32.0%)
Income before tax	(662)	(52.8%)	(3,047)	(35.2%)
Tax	647	+28.5%	1,567	+8.5%
Net income	(15)	nm	(1,480)	(54.6%)
Non-controlling interests	31	nm	148	+28.5%
Net income Group share	(46)	nm	(1,628)	(51.8%)

* 2012 年度第 1 四半期のハイブリッド債の買戻し(8 億 6,400 万ユーロの収益)の調整後。

2013 年度第 4 四半期の収益は、前年同期の-11 億 9,900 万ユーロに対して、-4 億 2,100 万ユーロでした。この中には、前年同期の-8 億 3,600 万ユーロに対して、発行スプレッドによる-4,600 万ユーロが含まれています。財務管理による収益には、バンキンター株の売却益である 5,300 万ユーロが大半を占める少数株投資取引が含まれます。クレディ・アグリコル S.A. は 2014 年 1 月、この投資の残り(およそ 0.3%)を売却し、もはやバンキンター株を保有していません。更に、2013 年度第 4 四半期の CA イモビリエの収益は、2012 年度第 4 四半期の Pasteur ビルの売却で受領した手数料により前年同期比で減少しました。

他の資産の純利益には、パリにあるビルの 6,800 万ユーロの売却益(税引後は 4,300 万ユーロ)と 2,000 万ユーロの Eurazeo 株売却益(税引後は 1,900 万ユーロ)が含まれます。この取引を経て、クレディ・アグリコル S.A. の Eurazeo の持分は 14.8% に低下しました。

2013 年 1 月の最後の増資で取得したエンポリキの短期投資株式の売却損の税控除により、2 億 2,300 万ユーロの税効果が生じました。

全体では、純利益グループ帰属分は、2013 年度第 4 四半期が-4,600 万ユーロ、通年では-16 億 2,800 万ユーロとなりました。発行済債券のスプレッドと例外的要因(バンキンター株と Eurazeo 株の売却益、不動産売却益、及びエンポリキの税控除に伴うプラス結果)を修正再表示すると、2013 年度第 4 四半期の純利益グループ帰属分は、-3 億 4,300 万ユーロとなりました。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2013 年 12 月 31 日現在の当グループの顧客ローン残高は、地域銀行、LCL、及び国際リテール・バンキングの子会社が前年同日比で 0.4% 増の 5,300 億ユーロを記録したことを受けて、7,080 億ユーロとなりました。資金調達に関しては、バランスシートの顧客預かり資産が 6,480 億ユーロに達しました。地域銀行、LCL、及び国際リテール・バンキングの子会社のオン・バランスシート預金は、前年比 4.5% 増の 4,800 億ユーロとなりました。

地域銀行は堅調な事業展開を維持しました。預金残高は 2012 年度 12 月末時点比で 3.2% 増となる一方、ローン残高は同期間に 0.4% 増加しました。地域銀行の預貸比率は、2012 年 12 月以降 5 ポイント改善し、2013 年 12 月 31 日現在 121% に達しました。IFRS に 100% 従った 2013 年度第 4 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 5.9% 増の 9 億ユーロに達しました。

(in millions of euros)	Q4-13	Change Q4/Q4*	2013	Change 2013*/2012*
Revenues	7,959	+11.7%	31,178	+1.6%
Operating expenses	(5,101)	(2.4%)	(19,694)	(1.6%)
Gross operating income	2,858	+50.3%	11,484	7.6%
Cost of risk	(1,017)	(15.1%)	(4,006)	(13.1%)
Operating income	1,841	x2.6	(7,478)	+23.3%
Equity affiliates	(15)	(92.3%)	87	nm
Net income on other assets	96	(17.1%)	112	(42.5%)
Change in value of goodwill	-	nm	(22)	(99.3%)
Income before tax	1,922	nm	7,655	x2.6
Tax	(385)	+32.7%	(2,209)	(3.0%)
Net income on discontinued or held-for-sale operations	(132)	nm	54	nm
Net income	1,405	nm	5,500	nm
Non-controlling interests	112	nm	364	x6.9
Net income Group share	1,293	nm	5,136	nm

* 2012 年度の業績は、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジ、CA ブルガリア、及び CACF の北欧子会社の計上を修正再表示したものであり、一部のコンプレックス・デリバティブの評価変更を含みます。

2013 年度第 4 四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、前年同期比 11.7% 増の 79 億 5,900 万ユーロでした。この改善は、特にフランス国内のリテール・バンキングと保険など中核事業の好調な展開を反映しています。また、(2012 年度第 4 四半期の発行済債券のスプレッド、ローン・ヘッジ、事業適応計画費用など 8 億 2,300 万ユーロの費用に対して)バンキナー株の売却益(5,300 万ユーロ)、CVA/DVA、ローン・ヘッジ、発行済債券のスプレッド(-2 億 3,000 万ユーロ)など、事業活動とは関係のない個別項目の影響も反映しています。

営業費用は、2012 年度第 4 四半期比で 2.4% 減少しました。この変動は、費用削減プログラムの強化(主に MUST プログラムによって生じた削減額)と CACIB 及び CACF の早期退職制度の影響を反映しています。

リスク関連費用は抑えられて、2012 年度第 4 四半期比で 15.1% 減少しました。2013 年度第 4 四半期のリスク関連費用は、2012 年度第 4 四半期残高の 54 ベーシス・ポイントに対して 50 ベーシス・ポイントとなりました。この低下は、特にアゴス・デュカトでの消費者金融のリスク関連費用の改善を主に反映しています。

当第 4 四半期の税金費用は、2013 年 1 月のエンポリキの最後の増資に関連する損失の税控除、及びイタリアでの税率と税控除規則の変更に伴うカリパルマとアゴス・デュカトについての 5,700 万ユーロの税効果によってプラス影響を受けました。所得税も、フランスで 36.1% から 38% への税率引上げの影響を受けました。

当第 4 四半期の非継続事業又は売却目的オペレーションの純利益は-1 億 3,200 万ユーロとなり、この中には、IFRS 第 5 号に従って当第 4 四半期に認識されたクレディ・アグリコル・ブルガリア及びクレディ・アグリコル・コンシーマー・ファイナンスのいくつかの北欧子会社の売却計画の影響が含まれています。2012 年度第 4 四半期の純利益は、(エンポリキの売却を主因として)-10 億 7,900 万ユーロとなりました。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期の 31 億 9,100 万ユーロの損失に対して 12 億 9,300 万ユーロを達成しました。2012 年度第 4 四半期の業績には、事業適応計画の完了、クレディ・アグリコル S.A. の事業の重点見直し、及び総額 25 億 2,500 万ユーロについて認識されたのれん代の減損が反映されていることにご注意ください。

2013 年度の純利益グループ帰属分は、前年度の 37 億 2,600 万ユーロ¹の損失に対して 51 億 3,600 万ユーロを達成しました。この中には、のれん代の減損、クレディ・アグリコル S.A. の事業の重点見直しについて当年度中に下された決定に伴う影響(エンポリキとその売却に関連する推定損失、CA シュブルーの売却、インテサ・サンパオロ株の売却、バンキナーの連結除外など)、更に既存社債の再評価が含まれています。

¹ 2012 年度の業績は、IFRS 第 5 号に従ったニューエッジ、CA ブルガリア、及び CACF の北欧子会社の計上を修正再表示したものであり、一部のコンプレックス・デリバティブの評価変更を含みます。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the fourth quarter and full year 2013 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.credit-agricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial information" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+ 33 1 43 23 26 78	Laurence Gascon	+ 33 1 57 72 38 63
Nathalie Auzenat	+ 33 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 1 43 23 06 38
Sébastien Chavane	+ 33 1 57 72 23 46	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 1 43 23 15 99
Aleth Degrand	+ 33 1 43 23 23 81	Aurélie Marboeuf	+ 33 1 57 72 38 05